

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400898		
法人名	社会福祉法人 恵神会		
事業所名	グループホーム神庭荘		
所在地	岡山県真庭市組573番地		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://pref.okayama.jp/page/detail-7669.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、一人一人の個性を尊重し、その人らしく毎日を活動的に過ごして貰えるように支援させて頂いています。又、安心して日常生活が送れるように職員間での情報共有を密にし、目配り・気配り・心配りに心掛け寄り添いながら、笑顔で過ごせるように接しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

真庭市の城下町勝山の組にあり、近隣の母体の施設と共に大きな行事やイベントに参加し、地域に開かれたグループホームです。その人らしさと共同生活の秩序を大切にしたい穏やかな日々の暮らしが窺えます。職員がお互いを理解し合いながら入居者が「笑顔」で過ごせるよう信頼関係の構築に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「惻隱の情」を共有し、心のかもったサービスの提供・向上に務めている。グループホーム独自の心得として‘や・い・ゆ・え・よ’を実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえたグループホーム独自の理念(や:優しさ・い:労り・ゆ:ゆとりを持って・え:笑顔で・よ:よろこんで)をもとに職員は実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブの訪問や月2回の民話慰問、年2回の地婦人部との交流、地域の秋祭りや納涼祭での交流を図っている。 ※コロナの為現在中止	近隣の母体の施設と共に大きな行事やイベントに参加し、地域に開かれたグループホームとして日常的交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市・包括支援センター等と連携をとり、在宅での介護困難な方の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市・地域代表・家族代表・4事業所が集まり活動報告や、情報提供、要望等話をしている。 ※コロナの為会議は中止しているが、文章での報告にて取り組んでいる。	コロナ禍が終息してからというのではなく、現状の中で出来る事をという発想で、2ヶ月1回書面で報告して、返信用封筒を同封して意見や提案を貰うようにして、サービスの向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	4ヶ月に1回のグループホーム連絡協議会に参加し、市の担当者からの情報提供、他事業所との意見交換に務めている。 ※コロナの為検討中	コロナ禍で交流が難しい中、運営推進会議の報告書を通じて実情やケアサービスの取り組みについては積極的に伝え、何かの折には質問して、協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束の利用者はいないが、危険性がありやむおえない場合は家族に相談し対応する。法人全体で身体拘束委員会が主となりケアに取り組んでいる。	日々の支援の中で危険を伴うときの声掛けが拘束になっていないか職員同士、注意し合うよう取り組んでいます。	声掛けはどんな場面でも大切で、難しいと思います。職員同士これからもその都度、注意し合える関係が継続されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議、日々のミーティングにて常に話し合う機会を持ち、職員同志でお互いに声を掛け合い注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの申し出や必要に応じ職員間で確認しながら話し合いを持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には期間や料金表、重要事項についての説明をしており、理解をして頂いた上で取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や月1回の手紙にて要望を聞いたり、面会時等活用し、できるだけ反映できるようにしている。又、玄関に意見箱を設置している。	コロナ禍、家族は予防接種済みの方に限定し、窓越し、パーテーション越しの面会を実施し来訪時を活用して意見や要望に耳を傾け、運営に反映するよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のワーカー会議や日々のミーティングにて情報交換や意見を出し合い、業務に反映している。	管理者は一人ひとりの職員が置かれている立場、環境を日頃から把握するようにして、ひとりの職員に負担が偏らないよう注意を払い、提案・意見などがあれば必要に応じて反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が楽しくやりがいを持てる職場作りに務めている。年2回の人事考課制度を活用し、各自が向上意欲を持てるように務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市、各機関の研修を業務に支障ない範囲で参加してもらい、研修後の復命書にて内容の共有を図っており向上に務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会を活用し、情報提供や意見交換を行い、情報の共有とサービスの質の向上に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族や本人に見学していただき、事前面接や情報提供にて本人、家族の要望を聞いている。又、いつでも相談できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前には、家族の負担・苦勞にしっかり耳を傾け、利用に対しては要望や不安を取り除くように会話を持ち、信頼構築に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを基に、現状を把握し、他事業所との連携調整を行い、適切なサービスが受けれるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者としての立場にとらわれず、一人の尊敬する人格として相談し合える関係の構築に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より家族との関係を良好に保ち、月1回の手紙等で現状を伝え、新たな問題や問題解決に向けての相談しやすい関係を作り、共に支え合うように務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族はもちろん、長年の馴染みの方に気兼ねなく面会に来てもらえるよう声掛けし、ドライブ支援や受診等の際に近所や家に寄るようにしている。 ※コロナの為中止	馴染みの人や場は、時間と共に変化するものと変わらないものがあるように、入居者一人ひとりの思いも違いがあり、それらをふまえた継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	知人や気の合う利用者同志を同じテーブルにしたり、レク活動時は席を移動したり職員が調整している。又、難聴の利用者には筆談をしたり、孤立しないように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所後も病院・他の施設等と密に情報交換をし、相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家庭的な雰囲気作りで利用者・家族のニーズを把握し、その人に合ったその人らしい生活を大切にしている。	入居時、家族・本人から好きなもの、嫌いなもの趣味など聞き、本人本位に検討して取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネより生活歴を聞き、今までの生活でグループホームでもできる事は継続して行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事や水分の摂り方等に注意し一人一人の興味がある事を引き出し、楽しみのある生活を送って貰えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を基本に、身体状況を低下させず、認知症の進行を緩やかにすることを大切に作成している。	専門職や職員一人ひとりの日々の気付きや記録を基に、意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきを重視し、個別の記録に残し、朝・夕のミーティングで職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人自体全ての協力をし合い、イベント等の行事は共同に行い、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の地域交流を開催し、馴染みの人とのふれあいを持つ事で楽しく過ごせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それまでのかかりつけ医の継続を基本とし、受診・往診の支援を行い、医療と連携を取りながら行っている。	家族の協力を得ながら、適切な医療が受けられるよう支援に取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時にはただちに主治医の病院への連携をとり指示を仰ぐ。又、法人の看護師にも相談連絡し支援体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、グループホームでの様子を記入した情報提供を行い、入院期間は医師・ソーシャルワーカー・病棟看護師等連絡をとり、早期退院に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取については、本人・家族の希望や意向をふまえ、説明し同意を得ている。又、法人内の特養への移行・病院への移行等、常に話し合いに取り組んでいる。	母体の福祉法人の施設と連携を取りながら、本人、家族の要望などから希望に添えるよう、終末期に向けた取り組みが行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを基本に、荘内研修等で実施力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、法人内で合同訓練を実施。又、グループホーム内でも独自に実施している。	ハザードマップに基づき、グループホーム周辺から鉄砲水が出たという設定で避難訓練を行い、職員一人ひとりに行動が身につくよう訓練に励んでいる様子が窺えます。	これからも、職員一人ひとりが訓練を重ね振り返り、気付きなどを大切にしながらい層協力体制を確立されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉掛けを行っている(筆談等)。又、排泄や入浴については、本人の気分を損ねないように特に配慮しケアを行っている。	「親しき仲にも礼儀あり」を基本に、馴れ合いにならないよう人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛け対応に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク活動においても、常に「何がしたいのか・何ができるのか」声掛けし、参加の希望を表出できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の立場になり、その都度寄り添い要望を聞き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れた道具や化粧品等、自分らしさが出せる物は継続してもらっている。又、本人の馴染みの美容院への外出もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、もやしのひげ取り等、一緒にすることで食事への楽しみを持って頂けるよう支援している。	法人の管理栄養士が立てた献立を参考にしながら、入居者と一緒に調理しています。誕生会などは少し豪華にし、入居者の嚙下状態に合わせ食事を楽しむことのできる支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士との連携をとり、栄養バランスを考えている。又、食事形態の工夫や代替品等で、栄養・水分量を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き・義歯洗浄・舌のケアを行っている。一週間に一度ポリデント消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に合ったトイレの声掛け、排泄のリズムを大切に自力支援に務めている。基本的な考えとして、「排泄はトイレで」を軸にしている。	体調不良による失禁なども考慮した上、一人ひとりの力量や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にカスピ海ヨーグルト又、十分な水分補給に務め、海藻類や繊維質の多い食材を提供している。又、散歩や歩行運動もし、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合った入浴支援に務めている。安全・安心な入浴。心身共にリフレッシュでき、時間にこだわらず職員とコミュニケーションを取り楽しみを持ってもらっている。	入浴を嫌がる人には、根気よく日・人を変えて入浴できるよう支援しています。体調に配慮し、気持ちよく入浴できるよう個々にそった支援に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温には注意し、本人にも温度を確かめている。くつろげるようにホールのソファを活用。居室には本人馴染みの寝具の持ち込みも可能にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容をスタッフ全員で把握できるようファイリングし、新たな薬の追加や頓服等伝達ノートにて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の草取り・野菜の収穫・洗濯物たたみ・清拭タオル巻き等出来る事はしてもらい、役割を持つ事で生きがいや、やりがいを持ってもらえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブに出かけ外出支援をしている。9月・10月・11月と実施できた。	コロナ禍で、日常的な外出支援が難しい中、現状で出来る事を模索しながら、ドライブや野外昼食会など少しでも外気浴が出来、気分転換できるよう支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望したり、生活上必要なものは預り金にて購入している。出納帳へ記入し、月1回家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の郵送物は、手渡し見てもらっている。電話については気兼ねなく掛けてもらっているが、聞こえにくい事もあり、職員のサポートが必要な事が多い。又、本人用の携帯電話を持参されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は空調や照明の調整をその都度行い、ホールからは庭の花や野菜が見られるようになっている。又、ホールには季節を感じられるよう職員が飾りつけをして、心地良いスペースを提供している。	「便所」・「お風呂」と大きな字で表示され、入居者が迷わないようにしてある。ホールは入居者と職員と一緒に作った飾り物が飾られ、明るく楽しい雰囲気になるよう工夫している様子が窺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席と誰でも座れるソファがあり、レク活動の合間や少し休みたい時等ソファを利用され、くつろぎスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや愛用品を持ってきていただき、家での生活の延長上に、グループホームの居室があると思って頂けるようにしている。	安全、清潔のもと、ある入居者の居室は自分で作ったパズルの絵を飾ったりして、その人らしく居心地よく過ごせるような工夫をしている様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの廊下は手すりを設置し、安全に自立した移動を心掛けている。又、居室入口の表札をかけず、安全に過ごしてもらえよう支援している。		